

# 【施設見学報告書】京都市立向島秀蓮小中学校

## <目次>

1. 説明概要.....	1
2. 施設見学写真.....	3
3. 質疑応答.....	5
4. 参加者感想.....	8

### 【 1. 説明概要 】 説明者：校長 ※説明資料：別添のとおり

#### ■京都市の小中一貫教育の成果

- ・不登校数の減少
- ・小・中の教職員の相互理解が進む ⇒ 連携が進む

#### ■向島秀蓮小中学校設立のポイント

- ・統合前は3小1中の学校区だった。
- ・学校統合に係る要望書が地域から教育委員会へ提出される。  
(地域活性化を目指した、地域の核となる学校づくり)
- ・中学校区内の児童生徒数は、ピーク時の1/4  
(昭和60年頃4,000人程度 ⇒ 平成26年統合要望書提出時1,000人程度)
- ・なぜ施設一体型小中一貫校なのか？  
⇒① 地域の核となる施設をつくるため  
② 京都市の小中一貫教育はこれまで大きな成果をあげてきたため

#### ■向島秀蓮小中学校について

- ・施設一体型の義務教育学校
- ・1年生から標準服着用
- ・児童生徒数 開校時930人程度(令和元年度) ⇒ 令和3年度860人  
⇒ 今後はしばらく、児童生徒数は横ばいの見込み
- ・教職員数 常勤85名(全体101名)

- ・“学校教育目標”や“育成したい資質・能力”は、別添（説明資料（パワーポイント印刷物））のとおり
- ・学年区分は「4・3・2」
- ・「4・3・2」の各ステージの最終学年（4年生・7年生・9年生）を、それぞれのステージのリーダーとしている。さらに、8・9年生は、全体のリーダーとしている。
  - ⇒ 施設一体型小中一貫校では、小学校6年生がリーダーシップを養う機会が失われるのでは？とよく聞かれるが…
  - ⇒ 学年段階の区切りを「4・3・2」とすることで、4年生・7年生・9年生の3回リーダーシップを養う機会がある。学校行事等を通じて、リーダーシップが養われるような仕掛けを行っている。
- ・5年生から教科担任制を導入
- ・授業時間：～4年生 45分（授業間5分、中間休み20分）
  - 5年生～50分 ←5年生から50分授業にすることで、7年生と同じ授業時間編制となるため、教科担任制の導入が可能となる。
- ・8・9年生は全教科で「タテもち」（6・7年でも国語・算数（数学）の教科で採用）一人の教員が複数学年の授業を担当 ⇒ カリキュラムマネジメントの実践方策
- ・生徒会、部活動も5年生から参加。5・6年生の部活は、週1日（火曜日）
- ・委員会活動は、5～9年生から委員を選出。4年生以下のベーシックステージにおいても、5～9年の委員会が実施する取り組みのうち、できることを担う。
  - その際、ベーシックステージの最高学年である4年生が、5～9年の委員会の方針等を低学年に伝えることで、リーダー性を養っている。

## ■これまでの成果と課題

### <成果>

- ・学習指導 ①学習規律の定着 ②学力向上
- ・生徒指導 ①中1ギャップの解消 ②不登校・問題行動の減少 ③自己有用感の向上
- ・教職員の意識 ①小・中の価値観の共有 ②9年間の系統性
- ・教職員の力量 ①授業力の向上 ②組織対応力の向上
- ・地域とのつながり ①教材としての活用 ②人材活用

### <課題>

- ・開校当初、教職員の多忙化が問題であった。 ⇒ 現在は通常の状態になっている。

## 【 2. 施設見学写真 】



<1F フロアマップ>

建物は5階建て

敷地形状に合わせた建物配置

【普通学級の配置】

1F … 1年

2F … 2,3,4年

3F … 8,9年

4F … 5,6,7年



<1F 昇降口、階段、エレベータ>

校舎内は全体的に、木が多く使用されている。

エレベータは、基本的に児童生徒は使用不可。

主に給食運搬で使用。車いす等も入るサイズ。

その他、保護者等来校者が使用。



<1F 交流ホール>

フロアマップで扇形の部分

窓の向こう側は、低学年広場で遊具がある。



<5F 廊下>

廊下は一般的なつくり



#### <3F 普通教室 間仕切りあり>

普通教室の一部には、天井に可動間仕切り用のレールあり。

間仕切り用のレールがある以外は、間仕切りなしの普通教室と全く同じ。用途も同じ普通教室。



#### <3F 普通教室 間仕切り>

間仕切りを使用している状態の普通教室



#### <3F 大体育館>

2つあるうちの大きい方の体育館。

入り口は3Fで天井は5Fまでの3階分で設置。

空調設備はなく、地中の空気（夏は冷たく、冬は暖かい）が体育館周りの換気口から換気されるようになっている。



#### <5F 屋上プール>

1～9年まで、屋上プールを使用。

導入水量で水面の高さを調整。（床は可動式ではない）

そのため、低学年が入ったら、導入水量を増やして、次は高学年という風に使用している。

**【 3. 質疑応答 】**      回答者：校長      質問者：懇談会参加者

Q1. 説明によく出ていた、「地域」とは何を指しているのか？

A1. 自治会や学校運営協議会。

学校統合に係る要望書を提出したのは、学校創設協議会という組織で、各地区の代表やPTA、青少年指導員等により構成されている。

Q2. 統合により、廃校になった3校の跡地はどうなっているのか？

A2. 3つのうち、教育委員会所管のままがひとつ、残り二つは市の所管に移った。

<教育委員会所管の学校跡地>

建物：地域団体等に貸し出ししている。

グラウンド：向島秀蓮小中学校の部活動で使用（野球部・サッカー部）

※中学生で徒歩8・9分程度の位置

※学校跡地には、教員が1名常駐しているとのこと。

<市所管の学校跡地1>

地域の集会所機能に、区役所機能を一部もたせて活用されている。

（市の出張所を含むようなイメージ）

<市所管の学校跡地2>

主にアフリカからの留学生を受け入れる施設として活用されている。

Q3. グラウンドが狭いのではないか？

A3. 確かに狭い。

体育の授業は、体育館が二つあることもあって、向島秀蓮小中学校の敷地内で問題なく行えている。

ただし、部活動を行うには狭いため、野球部・サッカー部は統合により空いた学校跡地のグラウンドを活用している。

運動会は、開校以来、コロナ禍の影響で学年を分けて実施しており、今後どうするか検討中。

Q4. 部活動について、5・6年が週1回参加ということだが、どのように参加するのか？

A4. 7～9年生は、週5で行っており、5・6年が参加する日は、5・6年と一緒にいる内容で活動している。例えば野球だと、トスバッティングやキャッチボールなど

Q5. これまでの成果の不登校が減少した点について、なぜそのようになったと分析しているのか？

A5. 開校からまだ年数が浅く、はっきりしたデータがあるわけではないが、通常は学年進行に伴い、不登校児童生徒数は増加傾向がみられるが、向島秀蓮小中学校では、それが増えていないというのが正確なところ。

なぜそうなるのか、という点だが、小中一貫教育の内容により、不登校が減少するのではなく、施設一体型小中一貫校としての人充てが影響しているのだと思う。

つまり、1校当たりの教員数が増えることで、子どもからすれば相談相手が多くなり、それぞれの子どもが相談しやすい教員を見つけやすい、ということが影響しているのではないかと考えている。

Q6. 支援学級が少なく感じたがどうなっている？

A6. 支援学級では、9学年を発達段階に分けて行っている。そのため、学年ごとに支援学級があるわけではない。なお、支援学級に在籍する児童生徒の保護者については、参観日でなくても、いつでも学校に来てください、というスタイルであり、支援学級の担任と保護者は密な関係ができています。

Q7. 保健室は9学年でひとつだが、どう対応するのか？

A7. 部屋は一つだが、3人体制で、小・中で対応を分けるということではなく、児童生徒のケガや症状に応じて対応するため、問題ないと考えています。

Q8. 現在、課題としていることは何か？

A8. ひとつは、教職員の多忙化のこと。ただ、これは、現在は落ち着いてきている。

また、グラウンドが狭いことは、大きな課題と考えています。

義務教育学校では、小と中の区別がない中、小学校卒業時にあったような、気持ちを新たにという意識を子どもたちにどうつけるかは、いろいろ試行錯誤しながら進めているところ。

Q9. 学校統合に伴い、地域から要望書が出されたということだが、地域住民の中には反対運動などもあったか？

A9. 反対運動はあった。統合前からながくある学校への思いというものは強い。ただ、地域が子どもたちのために話し合いを行う中で、いくつかある選択肢の中から、今の形を選択したということ。

Q10. 反対運動もある中、どういう経緯で今の形に落ち着いたのか。

A10. 要望書が出されてから、4年半で25回の会議があり、どういう学校にしていくのか話し合いが行われた。会議を行っていたのは、自治連合会の代表やPTA会長など

Q1 1. 学校が地域の拠点とはどういうことか？

A1 1. 一貫校にすることで、地域で一つの学校になり、地域の力が集結するということ。

Q1 2. 小学生にとって、865人という大規模の課題はどういうところか？

A1 2. 1年生が9年生にぶつかるのではないかというご心配かと思うが、9年生は自分たちの学年のフロアでは自由にやっているが、他の学年のフロアでは模範的にふるまってくれている。開校前によく保護者が心配されていることは、開校してみれば問題になっていない。教育環境に関するデメリットは粗探ししても、なかなか見当たらないのが現実。

規模の話とは異なるが、学校統合により、通学距離が延びる地域があり、学校が遠くなる児童生徒がいることは、課題であると考えます。

## 【 4. 参加者感想 】

参加者の方には、施設見学終了後、以下の2項目についてアンケートを実施しました。アンケートにご協力いただいた参加者の皆様のご意見・ご感想等をご報告します。

(1) 向島秀蓮小中学校（施設一体型小中一貫校）の印象や良かった点・課題と感じた点、感想などをご記入ください。

(2) その他、感じたことなどをご自由にご記入ください。

### **(1)向島秀蓮小中学校(施設一体型小中一貫校)の印象や良かった点・課題と感じた点、感想などをご記入ください。**

■施設の作りがとても考慮されていると感じた。生徒の姿が見えやすい配置とガラス張りなどの工夫は良かった。各階にティーチャーズルームを配置していたり、学習室、自習室なども適宜配置されていた。狭い敷地ながら、さまざまな工夫をした校舎づくりになっていると感じた。(トイレ横の棚や階段横のスペースを利用したイス配置、書架の配置など)相談室、カウンセリングルーム、地域交流ルームの配置もよかった。

児童生徒の声も聞きたかった。(施設などについて)

通級教室、支援クラス、保健室など、配慮が必要な教室が少なく、小中共有なのがやはり気になった。発達課題や身体的なことも含む繊細な部分のことなので、少なくとも複数あった方が良いのではなかったかと思う。この学校では、教師の数を3名にすることで対応していたが、それが三中校区でも適応されるのか、課題だと感じた。

プールは工夫されていて(水量の調節で)、1つで対応できるようになっていた。今さらながらではあるが、一中でも、それができなかったのかなと思った。

色々なことを実際に見て感じることができました。

■とても素晴らしい学校と施設にびっくりしました。あれだけの施設と教職員の方と地域の協力で、子どもたちがのびのびといたわり合いながら勉学に励める事はとっても良いことだと思いました。施設一体型小中一貫校にはあまりマイナス面がないことにもびっくりでした。

教職員の方々もとても子ども達のために頑張られている様子が分かりました。(1年生から9年生の子ども達がいると大変です)

■2校とも考えられた施設ですばらしいなと思うことがたくさんありました。向島の学校で

は、地域に開かれていることが特に印象的です。また、「3い」が半減したという点には注目したいと思います。 ※「3い」…いじめ、いたずら、いやがらせ

学校の設立にあたっては、何度も地域と教育委員会で会議が持たれたということですが、3中校区でも、学校適正配置懇談会の4回に続いて、さらに地域・保護者・教育委員会等での話し合いや勉強会、研究会を重ねて行って欲しいと思います。

今回は京都市の学校の例を勉強させていただきましたが、交野市の実状とは違う点もあり、他所の一貫校についても勉強していききたい気持ちです。

交野三中校区も、星田小学校をはじめ、歴史ある校区、それぞれの学校に愛着があると思います。丁寧な検討をする時間を充分にとっていただくことで、市民の理解とよりよい方向性が見つけられると良いと思いました。

■狭い校地に校舎を建てているため、日があたらない部分が多く、校舎内が暗い。運動場が狭い。

■地域の方の声で小中一貫校ができたという点に大変驚きました。また、統合に向けて子どもたちも先生方も何度も交流会をかさねたからこそスムーズな統合ができたのだと感じました。

統合に向けての話し合いが4年もあると聞き、先生、地域、市の方々が納得するには長い時間が必要であると感じました。子どもたちのために様々な工夫をされている向島秀蓮小中学校の先生方の姿に感動しました。

今日の見学で、小中一貫校の良さもたくさん感じる事ができました。ですが、今必要なのはスピード感ではなく、じっくり話し合うことだとも感じました。

■開発で分散されている地域を一体化し、地域の絆を深め、これからの少子高齢化の時代を乗り切るためにも三中校区は施設一体型の一貫校の設置が必要であると思う。

地域懇談会が有意義なものになる様、教育委員会と地元が一体となって実現に向け進められたら良いと思った。

## ■【良い点】

・向島秀蓮小中学校は、「4年半」かけて地域住民、教員含めて納得し、地域の協力を経て作られた点はよかった。

- ・建物に関しては、白素目先良い作りだと思いました。(階段の色分け、天井、プールの水の高さ調節他)(各階にある教職員用の小部屋(ティーチャーズルーム))
- ・先生、生徒が協力して良くしていこうって雰囲気があること。

**【気になる点】**

- ・運動場の狭さはネック。離れにある運動場がなくなったときはどうするのか?
- ・現状通学トラブルは?これから1年生が入ってきたときは大丈夫か?
- ・中学生ギャップはないとのことですが、高校生ギャップが反動であるのでは?
- ・4年、7年、9年の現状の反応は?

■今回も素晴らしい実践事例を聞くことができた。ただ、やはり気になるのは、あまりにもプラスの面ばかり聞いたので、先進事例施設見学に参加したものはある種のマインドコントロールによって「施設一体型小中一貫校」賛成に誘導されているのではないかという点である。

両論併記的に施設一体型小中一貫校のプラスマイナス両面を客観的に聞いたかったというのが本音である。

成功事例よりも失敗事例からこそ人は学ぶことができるのではないだろうか。

■大変参考になりました。小中一貫校の良さが再認識された。施設・学校の雰囲気、子ども達の学校生活、地域コミュニティとの連携すべて理想的であり前向きに取り組むべきだと思った。

**|(2)その他、感じたことなどをご自由にご記入ください。**

■小中一貫校の縦割りの体制がとても有効に表れていると感じた。ただ、それには、各ステージの設置や教師の体制、ゆとりなど様々な努力や要因もあったと思った。地域との回数を重ねた話し合いの結果、地域も後押しできる学校建設になったことも大きいと思う。

三中校区でも、まだまだ建設計画を立てる前に時間があると思うので、話し合いを重ね、本当により良い形での学校建設が実現するとよいと思った。それが、ひいては子どもたちの将来にわたる大きな財産になると思う。「地域の子どもたちは地域で育てる。その基本は学校」という考え方は、三中校区、交野でも同じだと思う。地域住民が応援できるような学校づくり、また、跡地利用の在り方であってほしいと思う。

交野市、教育委員会、学校関係者、地域、保護者などのよりよい関係づくりのためにも話し合いが必要だと思った。(子どもによりよい環境をとるという思いは同じだと思うので)

■今回は子ども達のいない夏休みの見学でしたが、1～9年生の子ども達の学校生活の様子も見学してみたいと思いました。

三中校区の施設一体型小中一貫校についても、地域住民のいろいろな意見を聞き、十分な話し合いをして、子ども達のために良い方向に進めていただきたいです。

■良い点はたくさんあることがわかり良かったです。

①学力向上 ②「3い」の減少 ③施設の充実 ④地域に開かれる

ただ、交野市の場合、問題と思われるものもあります。

①跡地利用が売却になってしまうこと(地域のメリットが減少) ②地域住民からの必要性の実感(要望)が少ない。 ③大切な母校が失われる ④財政面 ⑤教育の負担増  
しっかり考えていきたいですね。

■「のびのび」のためには広い校地は必要。